

〈哲学×デザイン〉プロジェクト イベント一覧

ブックレットに寄稿していただいた方々が登壇したイベントの一覧を以下に記しておく。

- ・イベント情報としては告知したタイトル、趣旨文、開催日時・会場、登壇者名とその肩書を載せておいた。
- ・登壇者の肩書がしばしば奇妙なものになっているが(【10】以降)、これはそのつどゲストに「自分を一言で言い表すとしたらどうするか」と尋ねて自由につけてもらい、主催者もそれに応答する形でつけたからである。これもまたそのテーマへの登壇者の自己規定的姿勢を表しているのもので、そのまま載せた。
- ・〈哲学×デザイン〉プロジェクトは、イベントとしては第2回からしか存在しないが、それは2016年度のキックオフシンポジウムが、実質的に第1回に当たるからである。
- ・イベントの番号については、途中で数え間違えや勘違い等あって、実際のイベントとは一部ズレている(この一覧が正しい)。

※本プロジェクトは、以下の時期や趣旨に応じて様々な予算に支えられて進めることができた。ここに記して謝意を表したい。

- ・上廣共生哲学寄付研究部門L3プロジェクト「Philosophy for Everyone(哲学をすべての人に)」(【1】～【4】)
- ・東京大学ヒューマニティーズ・センター(HMC)LIXIL 潮田東アジア人文研究拠点企画研究「21世紀における共生の理論と実践」(【5】～【27】)
- ・日本学術振興会科学研究費基盤(C)「デザインとの協同による共創哲学の理論と実践」(2018～2022年 代表:梶谷真司)(【11】～【34】)
- ・日本学術振興会科学研究費基盤(B)「哲学プラクティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察(代表:稲原美苗)(【19】)
- ・日本学術振興会科学研究費基盤(B)「現代社会に生きる哲学教育を構築するための理論的・実践的研究」(代表:寺田俊郎)(【23】)

※梶谷が代表者となっている「デザインとの協同による共創哲学の理論と実践」は、もともと2018～2020年度までであったが、コロナウィルスの影響による特別措置で2年延長となった。そのため海外での活動はできなかったが、より長きにわたってコラボレーションができ、またこのブックレットも公刊することができたのはむしろ幸이었다。

【1】UTCP2016年度キックオフシンポ「For Dialogue in Crisis 共生の転回」

日時:2016年4月30日(土)14:00~18:00

会場:東京大学駒場キャンパス18号館コラボレーションルーム1

対談:早川克美(京都造形芸術大学/F.PLUS)×梶谷真司(UTCP)

「デザインの哲学/哲学のデザイン」

【2】哲学とデザインの邂逅

ますます複雑になり変化しやすいこの社会の中で、私たちは何を問題とし、どのようにそれと向き合えばいいのか——デザインと哲学は、まったく違ったところからいつの間にか、かつてないほどに接近している。

今、デザイン/哲学は、何を問い、何をしようとするのか。

哲学とデザインが出会うところで、何が新たに生まれるのか？

日時:2016年10月22日(土)13:00~16:00

会場:東京大学駒場キャンパスKOMCEE WEST 303

水内智英(名古屋芸術大学)「デザインに哲学は必要か」

梶谷真司(東京大学)

【3】宇宙と思想をデザインする

宇宙と思想は、いずれも無限と超越に接し、そこから未知の〈外部〉へつながる道が通じている。この二つが交差するところに、生と知の新たな可能性が見いだされるのか。

日時:2016年11月20日(日)13:00~16:00

会場:東京大学駒場キャンパスKOMCEE WEST 303

高梨直紘(天文学者・東京大学)「思想とデザインを宇宙する!？」

小阪淳(美術家)「宇宙にダメ出し!」

片桐暁(コピーライター)「「巻き込まれる」という生き方〜コピーライターの仕事をデザインする」

吉田幸司(哲学者・東京大学学振PD)「プロセス哲学の実践と哲学協創の試み」

堀越耀介(哲学徒・早稲田大学)「「〇〇×哲学」のデザインと実践」

今井祐里(哲学徒・上智大学)「「哲学する場」をデザインする」

【4】Inside Out~世界を変える視点

内と外、表と裏——どこから見るか、どこに線を引くかでまったく違った景色が見える。内を外に、表を裏に。豊かにもなれば貧しくもなる、美しくもなれば醜くもなる。あなたはどこに立ち、なにを考え、どのような世界に生きるのか。

日時:2017年3月18日(土)13:00～
会場:東京大学駒場キャンパスKOMCEE WEST 303
ライラ・カセム(グラフィックデザイナー)
村木真紀(虹色ダイバーシティ代表)
梶谷真司(哲学者)

2017年度

【5】戦争の語り方

批判、賛美、罪悪感、高揚感、絶望、憧憬、憎悪、熱狂、興奮、動揺、無関心・・・私たちは今、戦争をいかに語るのか。想起と展望の間で、どのような言語を見出すのか。

日時:2017年7月30日(日)14:00～17:00
会場:東京大学駒場キャンパスKOMCEE WEST 303
持田睦(演出家)
佐藤香織(哲学研究者)

【6】哲学のビジネス化

哲学が思考の革新である限り、それは社会のいたるところで大きな可能性を秘めているはずだ。哲学とビジネス——この一見無縁なものとの出会いから何が生まれるのか。

日時:2017年10月15日(日)14:00～17:00
会場:東京大学駒場キャンパスKOMCEE WEST 303
三宅陽一郎((株)スクウェア・エニックス テクノロジー AIリサーチャー)
吉田幸司((株)クロス・フィロソフィーズ代表取締役)
堀越耀介(SCiPメンバー)
岡田基生(上智大学 哲学徒)
梶谷真司(哲学者)

【7】ステキな問いの忘れ方

日時:2017年11月11日(土)14:00～
会場:東京大学駒場キャンパス17号館2階KALS
梶谷真司(哲学者)
参加者(いろいろ)

【8】問いのアバンチュール

問い、問われ、言葉を投げかけ、受け取る。ゆっくり、時にはやく。先は見えず、どこに行くのか分からない。でも、一緒に行けば、きっと楽しい——哲学はそ

んな思考の冒険だ。

日時:2017年12月3日(日)14:00～

会場:東京大学駒場キャンパスKOMCEE WEST 303

夏生さえり(ライター)

梶谷真司(哲学者)

【9】Knowledge Forest 知の森～つながる、広がる、図書館

これは、図書館で、本と人の間に隠れていたお話。

ご自身のお薦め本を持参するか、思い浮かべてきてください。

日時:2017年12月17日(日)午前10:00～／午後13:00～

会場:東京大学駒場キャンパスKOMCEE WEST 201

河本有香(デザイナー)

梶谷真司(哲学者)

2018年度

【10】ルワンダへの恋、ルワンダからの問い

愛、喜び、悲しみ、憎しみ、驚き、恥、恐れ、怒り、恨み、絶望、許し、諦め、慈しみ、感謝、共感・・・ありとあらゆる感情を経験した国、ルワンダ。現地の人たちと暮らすなかではじめて出会った数々の問いをみんなといっしょに考えたい。その先に新しい道が見えてくるのを期して。

日時:2018年6月17日(日)14:00～

会場:@東京大学駒場キャンパス17号館2階 KALS

加藤雅子(ルワンダに取り憑かれている山羊座の女)

梶谷真司(哲学に飽きた双子座の哲学者)

【11】音楽と想起のコミュニティ

音楽も言葉も、意味や記憶を蓄え、伝える。現在に響き、過去と未来に広がり、自己と他者を結びつける。その二つが出会うところで生まれるつながりのカタチをどのように展望するのか。そこにあなたはどのようなアイデンティティを見出すのか。

日時:2018年10月6日(土)13:00～

会場:東京大学駒場キャンパスKOMCEE WEST 405

アサダワタル(日常にギリギリこだわる放浪芸人)

梶谷真司(凡庸さにネチネチこだわる哲学者)

【12】『ぐるぐる回る光の中で』～映画をめぐる試行錯誤×対話ワークショップ

いろいろな方向を向いた個人が出会い、共に一つの物語を作る。
そのズレゆえに思い通りにいかず、衝突し失敗し、アクシデントに見舞われる。
そこから徐々に成長するナラティブ。
宇宙の歴史と生命の他の情にもつながる、
そんな不思議な成り立ちのずっと生まれつつある未知の出来事。

日時:2018年12月23日(土)13:00～

会場:東京大学駒場キャンパスKOMCEE WEST 303

中里 龍造(DAYDREAM THEATER)

梶谷真司(UTCP)

2019年度

【13】文を以て人を繋ぐ

文は時空を超えて人をつなぐ。共にいない人たちを一つの地平に置く。魂が
出会い、対話が生まれる。だから言葉を紡ぐのだ。その力を信じて。

日時:2019年6月30日(日)14:00～

会場:東京大学駒場キャンパスKOMCEE WEST 303

高橋元氣(おもさげねっと新聞記者)

梶谷真司(たあけかって哲学者)

【14】「ために」から「ともに」へ～インクルーシヴ・デザインによる関係性のつくり方

私たちはよく相手のために何かをしようとする。それでいい関係にならな
きゃって頑張る。でも、本当はその人と一緒にやればいだけじゃない？
自分の思った通りには行かないかもしれないけど、共に作っていくことで、
おのずとできていくものがある。それでいいし、それがいいんだ、きっと。

日時:2019年7月6日(土)14:00～

会場:東京大学駒場キャンパスKOMCEE EAST 211

山田小百合(インクルーシヴな環境の探求者/Collable代表)

梶谷真司(エクスクルーシヴな環境の破壊者/UTCPセンター長)

【15】哲学×言語～全人類が可能なコミュニケーションとは？

言語は私たちを結びつけると同時に引き離す。その言語の本性に逆らって、
私たちはどれほどの人たちをつなぐことができるだろうか。いっそ極限まで
行ってみよう——全人類がコミュニケーション可能な言語とはどのようなものか？

日時:2019年7月28日(日)14:00～

会場:東京大学駒場キャンパスKOMCEE WEST 303

松田崇弥(株式会社ヘラルボニー)
菊永ふみ(一般社団法人 異言語Lab.)
梶谷真司(国立大学法人東京大学)

【16】LANDSCAPE⇔SOUNDSCAPE 聞く・聴く・きく

〈軽さ〉の時代、氾濫するコミュニケーションに絶望する世界の中で、聴衆は運動する。景色と音色の間で作曲に戯れる現代音楽の瞬間を体感せよ！

日時:2019年10月26日(土)14:00～

会場:東京大学駒場キャンパスKOMCEE WEST 201

オンガクカ 小野龍一

テツガクシャ 梶谷真司

【17】哲学コレクティブ@UTCP&UTCP Xmas Party

あつまり、対話し、つながるなかで起こる〈ちいさなこと〉について。

日時:2019年12月21日(土)14:00～

会場:東京大学駒場キャンパス 18号館コラボレーションルーム3

阿部ふく子(新潟大学)「vol.6 コレクティブについてのコレクティブ」

【18】いかにして愛のために出会いの場をデザインするか

私たちは、愛のために出会おうとして、苦しみ、傷つく。求め、待ち、臆し、恐れ、黙す。どうすれば私たちは、出会い、つながり、共に生きることができるのか——〈婚活×哲学〉コラボレーション・プロジェクト始動！

日時:2019年12月22日(日)14:00～

会場:東京大学駒場キャンパスKOMCEE WEST 303

石原鉄兵(出会いと結婚を心から応援するバツイチ独身男／(株)マハロー)

井上敬一(誰よりモテたい“モテさせ屋”／(社)恋愛・結婚アカデミー協会代表理事)

梶谷真司(婚活イベント好きの哲学野郎／(東大)ユーティージーピー)

【19】障壁のある人生をどのように生きるのか

人生において立ち足かかる障壁と、私たちはどのように向き合うのか——乗り越えるのか、避けるのか、引き返すのか、抜け道を探すのか、穴を穿つのか、その前で頽れるのか——そのとき私たちは、誰と共に、いかにして生きるのか。

日時:2020年1月12日(日)14:00～

会場:東京大学駒場キャンパスKOMCEE WEST 303

伊是名夏子(身長100cmちょっぴり辛口コラムニスト)

藤原雪(シングルマザー院生)

Michael G. Peckitt (Disabled Writer & Academic)

稲原美苗 (声が出せない哲学者)

梶谷真司 (おしゃべりな哲学者)

2020年度

【20】ビジネスの哲学化——なぜ、企業経営に哲学が必要とされるのか？

近年、ビジネスにおける「哲学」の導入が急速に進んでいます。欧米では、「哲学コンサルティング」をおこなう企業や団体が次々と設立され、「In-House-Philosopher(企業内哲学者)」を雇用する企業さえ、現れ始めているのです。

これまで、哲学とビジネスは、水と油の関係のように考えられてきたかもしれませんが、古代ギリシアの哲学者ソクラテスも、かつて、アテナイの人たちに向かって、地位や名声、お金のことよりも、「善美なる事柄」を追求し、魂を優れたものにすることに気をつかうべきだと説きました。

しかし、いまや、ビジネスの世界でも、ESG(環境・社会・ガバナンス)やSDGs(持続可能な開発目標)をはじめ、「善美なる事柄」の追求が求められているようになっています。また、近年は、科学技術が社会にもたらす課題、「ELSI(倫理的・法制度的・社会的課題)」においても、哲学や倫理学に期待が寄せられています。本シンポジウムでは、哲学とビジネスについて改めて問い直し、なぜ、ビジネスにおいても哲学的知見が求められるようになってきているのか、そして、人類が、よりよい世界を築いていくにはどうすればいいのかについて探求します。講演およびディスカッションは、なるべく平易な言葉を使っておこなわれま

すので、どなたさまもお気軽にご参加ください。

日時:2020年10月18日(日)14:00~16:00

会場:オンライン開催(Zoom ウェビナー)

小野塚恵美(カタリスト投資顧問株式会社 取締役副社長COO/
ジャパン・スチュワードシップ・イニシアティブ(JSI)運営委員会委員長)

成田真弥(リアルテックホールディングス エンビジョンマネージャー)

吉田幸司(クロス・フィロソフィーズ株式会社 代表取締役社長)

山野弘樹(東京大学大学院博士課程・日本学術振興会特別研究員DC1)

梶谷真司(東京大学総合文化研究科 教授/UTCPセンター長)

【21】ただ自分自身でいられる場を求めて

ただ私のままでいる——その何と難しいことか。私たちはいつも、自分以外の誰かや何かを気にして、それに自分を合わせて生きている。必要なことだけど、そうしているうちにいつの間にか自分が何者なのか、何をしたいのか

分からなくなってしまう。どうやって自分に戻ったらいいのか。
エッセイストの紫原明子さんは、「もぐら会」というお互いに自分の体験を語り合い、聴き合うことで「自分と世界とを“自分自身で”掘り深めていく」場を作っている。そのシンプルな場がどのような力をもつのか、そこから何が生み出されるのか。

日時:2020年11月26日(木)20:00～

会場:Zoom開催

紫原明子(エッセイスト)

梶谷真司(哲学者)

【22】子育てと哲学対話

子育てと哲学対話は運命的な出会いのようだ。悩み、疑問が多く、正解がない。なのに子育てサークルは、しばしば愚痴と共感だけの場になりがち。考えたこと、考えるべきことがたくさんあるのにもったいない！それに子どもも母親も、その存在じたいが哲学的な資質にあふれている。だから子育てには、哲学対話がぴったりなのだ！

日時:2020年12月19日(土)14:00～

会場:Zoom開催

尾崎絢子(はなこ哲学カフェ)

高口陽子(ねりま子どもてつがく)

安本志帆(みんなのてつがくCLAFa)

梶谷真司(UTCP)

【23】哲学。をプロデュース！

哲学をどうするのか？論文を書く、教える、応用する、入門書を出す、実践する(P4Cとか哲学カフェ)。そのどれでもない“プロデュースする”というのがあるのではないか。哲学のコンテンツを楽しみやすい形、親しみやすい形、かっこいい形、面白い形にして人々に見せるプロデューサーのようなもの。しかも文字通りに自分自身の哲学をproduce(生み出す)する。——そんなユニークな人たちと哲学の新しい姿を考える。

日時:2021年1月10日(日)14:00～

会場:Zoom開催

清水将吾(小説家)

永井玲衣(エッセイスト)

今井祐里(編集者)

【24】セックスという磁場を求めて～二村ヒトシさんとの対話

セックスそのものについて語るとは、どういうことなのだろうか。芸術として気取って見せるか、学問としてしたり顔で論じるか、下ネタや体験談で騒ぐか。さもなければ「性教育」で命の大切さの話にすり替えるか。いつも、高すぎるか低すぎるか、重すぎるか軽すぎるか、小さすぎるか大きすぎるかになってしまい、等身大になれない。しかも、達人もいれば素人もいれば、加害者もいれば被害者もいる。それでもセックスは、性別も年齢も職業も国籍も、時間も空間も越えて人を引きつける強力な“磁場”のようなものだ。それはどんな場なのか、そこにどうすれば行けるのか、そこからどんな景色が見えるのか。

日時:2021年1月16日(土)14:00～

会場:Zoom開催

二村ヒトシ(モテたい)

梶谷真司(イキたい)

【25】新たな結婚のカチを求めて

結婚というのは厄介だ。したい人は多いのに、する人はどんどん減っている。婚活するのも大変。恋愛だのセックスだの、子どもだの家族だの、好みだの相性だの、価値観だの趣味だの、スペックだのマッチングだの、お金がないだの仕事と両立できないだの、考えないといけないことが多すぎる。“らしさ”に縛られ、いろんなプレッシャーをかけられ、自分を認めてほしい気持ちと自分を受け入れられない気持ちの間で揺れ動く。何が正解か分からなくて、自分ではどうにもならないことばかり。先行きが見えず、不安が募る...結婚はいつからこんなに難しくなったのだろうか？

ここでちょっと考え方を考えてみよう。他の誰かと親密な関係を長く続けられること、場合によってはそこに子どもがいること——それが結婚だとすれば、いろんなこだわりを捨てて、無理せずできることをすればいい。そのためどうすればいいのか？何が必要なのか？

日時:2021年2月27日(土)14:00～

会場:Zoom開催

Kakinoki Masato(性愛規範について考えるノンモノガミー)

Suzuki Daiki(恋愛ではない結婚をしたいパンセクシャル)

Matsuo Chie(こじらせをハピ恋へ導く婚活アテンダント)

Kajitani Shinji(哲学対話で婚活を変えたいフィロソファー)

【26】居場所がなかったり、あったり、

居場所って、「場」として語られてばかり。だから今回は「人」から語ってみよう。つまり、「居場所」をめぐる経験について。意外に「居場所がない」ことが、最初の「居場所」経験だったりする。居場所がなかったり、あったり、求めたり、諦めたり、漂流したり、到着したり、旅立ったり…。そんな私たちの「生き方」に、こどもとおとな、そして東と西とを行き来しながら、まっすぐ光を当ててみよう。

日時:2021年5月30日(日)14:00~17:00

会場:Zoom開催

志村亜希子さん(樹の下ホーム;自立援助ホームの職員)

渡邊洋次郎さん(リカバリハウスいちご;依存症回復施設の職員)

梶谷真司(東京大学UTCP;哲学の教員)

中里晋三(東京大学UTCP;特任研究員)

【27】カメラを持って、回して、そこにいる

わたしたちが接する情報は圧倒的に、誰かが書いた文字だ。学術書ばかり、権威あるものほど文字で埋め尽くされている。しかし、語り手が饒舌にまくし立てる間に、本当に理解したい何かは静かに遠退いていないだろうか。良質なドキュメンタリーを観るたびに、それを痛感する。単に「百聞は一見に如かず」というだけじゃない(一见だろうが、一聴だろうが)。そのとき確かに、リアルに触れている。語らないカメラの体温すらも感じる仕方だ。

今回は「カメラ」がテーマ。傑作のドキュメンタリー映画を手掛けた二人の監督を導き手に、この謎めいた実感の中身を探っていこう。

日時:2021年6月13日(日)14:00~17:00

会場:Zoom開催

重江良樹さん(『さとにきたらええやん』監督)

田中悠輝さん(『インディペンデントリビング』監督)

梶谷真司(UTCP)

中里晋三(UTCP特任研究員)

【28】みんなのことば≠わたしのことば

大はコミュニティから、小は家族まで、「みんなのことば」が必ずしも「わたしのことば」とは限らない。そして「わたし」の声は、たいてい「みんな」の声に覆い隠されてしまう。その人固有のなにかをびったり表現できるのは、その人自身の「ことば」だろうけど、でもそれはどうやって？

「わたしのことば」を持つ難しさとその可能性を、今回、ゲスト二名の方と考

えてみたい。在日コリアン三世でもある金春喜さんは、教育現場で移民の子どもたちを取り巻く問題の研究や取材をし、本や新聞記事にまとめてきた。また、日本と台湾にルーツを持つEri Liaoさんは、幼いころに来日、その後、出自であるタイヤル族の研究に向かいつつも、一転して歌手になった。そんなお二人の話を伺うなかで、私たちはきっと様々な声や「ことば」に出会い、問い考えることだろう。

日時:2021年8月28日(土) 14:00~17:00

会場:Zoom開催

金春喜さん(焼肉屋そだちのジャーナリスト)

Eri Liaoさん(「カラOK」そだちの歌手)

梶谷真司(俗世間そだちの哲学者)

中里晋三(テツガクそだちの研究者)

【29】未来のコミュニティを作る～教育による地方創生の“たくらみ”

地方創生のために必要なのは何か？ 特産品、観光客、移住者、企業、等々。目指すのは経済的な豊かさか。しかし世界農業遺産にも認定されている宮崎県の高千穂とその周辺にあるのは、農業と人のつながりと教育。向かう先にあるのは、未来の仲間たちが暮らすコミュニティ。そのためにこれまでいろんな“たくらみ”を実行してきた3人のキーパーソンを迎え、私たちの未来を見すえてみよう。

日時:2021年8月7日(土) 14:00~

会場:Zoom開催

田崎友教(高千穂町役場)

上水陽一(宮崎県教育庁)

田阪真之介(NPO法人グローバルアカデミー)

阿部健一(総合地球環境学研究所)

梶谷真司(東京大学)

【30】障壁を越えて、出会いにかける

出会いは、人と人が対面するたびに生じているようで、決してそんなことはない。四六時中いっしょでも、出会えていないと感じることはしばしばだ。出会いの可能性を端から悲観している人も、きっといるだろう。

しかし非日常的な、出会いの困難が際立つ場において、それでも(というより、それゆえに)出会いを諦めるわけにはいかない場合がある。居場所を失った子ども・若者たちに会おうため、名古屋の繁華街に着ぐるみ姿で立ち、声をかけ続けてきた荒井和樹さん。集中治療の現場で、緊急度・重症度が高く、意思の表示や決定が難しい患者と家族に対し、その声を聴く関わりを続けてきた野口綾子さん。そのいずれの出会い方も、私たちの日常からは遠く隔たっ

て特異だ。しかしだからこそ、お二人との対話は、つつい理想化しがちな「出会い」の現実の可能性を、私たちが考え始める糸口を与えてくれるはずだ。

日時:2021年9月20日(月・祝)14:00~17:00

会場:Zoom開催

荒井和樹さん(全国こども福祉センター設立者)

野口綾子さん(急性・重症患者看護専門看護師)

梶谷真司(共創哲学提唱者)

中里晋三(養育研究者・NPO代表)

【31】学校が変わる時～内と外から見た教育改革の実践

学校を変えるのは難しい。生徒がいて、先生がいる。先生の中にも現場の先生と校長先生がいる。さらに教育委員会や文部科学省がある。学校を改革しようとしても、どこかが足かせになって進まないことが多い。そうすると、「どうせ変わらない」という無力感を抱き、次々に押し寄せる改革にも、ただ仕方なく表面的に付き合うだけになる。けれどもその一方で、学校が実際に目に見えて変わることもある。そこでは何が起きたのか？ 何が違っていったのか？ このシンポジウムでは、校長として数々の高校を改革してきた先生と、学校改革の支援をしてきた団体の人に登壇していただき、学校が変わる現場を言わば内と外から考えていく。

日時:2021年9月12日(日)14:00~17:00

会場:Zoom開催

萩原聡(東京都立西高等学校校長・全国高等学校長協会前会長)

白井一郎(子どもの成長と環境を考える会代表理事)

柴崎菜苗(子どもの成長と環境を考える会クリエイティブディレクター)

【32】娘であり、母であり、そして、私 in 八丈島

子として育ち、のちに親となることは、ただ役割を違えた繰り返しではない。親の子であり、子の親である以上に、子でも親でもない私がいる。そして家族のかたちも、私が私として生きようとする模索の過程でさまざまなものになる。ならなければ、おかしい。

今回は、寺尾紗穂さんと加納穂子さんをゲストにお招きする。寺尾さんは、すぐれた歌手であるだけでなく、様々なルポルタージュやエッセイを手掛ける作家であり、また現在進行形で三人の娘をひとり育てる母である。加納さんは、若くして東京・中野区で「沈没家族」という独自の試みをし(一昨年、映画にもなった)、現在は八丈島を拠点に地域をつなぐ次なる展開をしている。お二人ともに固有な幼少期を過ごされたと聞く。

そして今回は、加納さんのいる八丈島に全員が集合して、ライブ配信を行う

運びとなった。お二人との生の対話で、「家族とともに自由な私であること」について楽しく考えていきたい。

日時:2021年10月10日(日)10:00~12:00

会場:Zoom開催

寺尾紗穂さん(文筆家・音楽家)

加納穂子さん(もののけソーシャルワーカー)

梶谷真司(探究家・思想家)

中里晋三(子ども・ケモノ寄りの哲学者)

【33】哲学対話とコミュニティづくり～一緒に考えることでできるつながりとは？

哲学対話は「考える力」を育てるだけでなく、あるいはそれ以上に、人間関係やコミュニティを作るのに威力を発揮する。一つの問いについて一緒に考えるという行為が、なぜそのような力を持つのか。そこで生まれるコミュニティとは、どういうものなのか。自分が住んでいる地域で、対話を通してコミュニティを作っている二人を呼んで、哲学対話のもつもうひとつの側面について考えたい。

日時:2021年11月21日(日)14:00~

会場:Zoom開催

馬場智一(長野県立大学)

稲原美苗(神戸大学)

【34】共にいること、共に生きること、共に創ること

共にいて、共に生き、共に創る——このシンプルなことの面白さと難しさを前に、私たちはどうすればいいのだろうか。デザインと哲学の交差するところから、これからの新しい地平に向けて4人が語り合う。

日時:2021年12月12日(日)14:00~

会場:Zoom開催

服部滋樹(Communication Design)

水内智英(Relational Design)

鞍田崇(Philosophy of Life)

梶谷真司(Inclusive Philosophy)